

光彩だより

2011年冬号（2011.1.30発行）

- | | |
|-----------------------------|-------------|
| ★精神障害者通所授産施設 京都市朱雀工房 | ★グループホーム賀陽 |
| ★京都市中部精神障害者地域生活支援センター | ★グループホーム山ノ内 |
| 「なごやかサロン」 | ★グループホーム光 |
| ★就労継続支援A型事業所 ワークステーションかれん工房 | |
| ★就労継続支援B型事業所 西山高原工作所 | |

《発行》社会福祉法人 京都光彩の会（発行責任者／上村啓子）
〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1-15 京都市こころの健康増進センター3F
TEL: 075-314-0835 FAX: 075-314-0781 E-mail: info@kyoto-kosainokai.jp
URL: <http://kyoto-kosainokai.jp/>

「更なるご支援をお願い申し上げます」

社会福祉法人京都光彩の会
統括施設長 上村啓子

2011年という新しい年が始まりました。皆様、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。本年も引き続き障害者自立支援法にかわる新法の制定や障害者権利条約の批准、障害者基本法の改正に向けていろいろな動きが見られることと思います。「障がい者制度改革推進本部」やその実務チームである「障がい者制度改革推進会議」では年末に「第2次意見」が示され、障がい者制度改革について考える地域フォーラムが各地で開催される予定になっています。

一方、昨年の12月3日には自立支援法の改正案が可決されました。この改正案は6月の国会で廃案になった自民・公明党案が無修正で再上程されたものです。施策を見直す間の法律であるのに新法制定や自立支援法廃止にはふれられておらず、1割負担の仕組みも残っています。2012年に新法の法案が提出、2013年に実施という期限から混乱を招きかねません。

政治情勢の不安定さや国の財政が厳しい状況で、法もどのようなものになっていくか先行きに不安を感じます。地域移行がすすんでいない現状、利用者負担の大変さ、事業運営の厳しさなど現状を伝え、障がいのある人たちが当たり前に地域で働き生活できるよう改善を粘り強く訴えていきたいと思っています。

喫緊の課題として平成23年度中に法人の運営施設である京都市朱雀工房が事業移行を終えなければならないということがあります。「働きたい」という思いにこたえてジョブコーチ支援事業や清掃講習会や職業訓練、施設外就労などを実施し、就労支援を行ってきたこれまでの経過から就労移行支援事業と就労継続支援事業B型の多機能型が考えられます。朱雀工房のご利用者の皆さんのご希望を第一にして、望まれる支援を行っていきたいと思っています。移行には利用率が高くない状況から困難も予想されますが、活動を見直し拡げていく、また法人内で連携を強めるよい機会になると考えています。

皆様のお力添えがないと乗り切れません。よろしくご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

京都市朱雀工房より

■朱雀工房の近況

現在、朱雀工房の登録メンバーは 21 名となっており、それぞれのペースで自分の目標に向かって毎日の作業に取り組んでおられます。登録されている中でも今年度 3 名の方は就職が決まり、在籍しながら新たな職場でチャレンジされています。就職されたメンバーさんの存在は、朱雀工房のメンバーさんにとっても良い刺激になっているのではないかと思います。スタッフとしても、時々朱雀工房に顔を出したり、電話で近況報告をしてくれたりするのを嬉しく思っています。

新年 1 月 4 日には新春のつどいを持ち、各々抱負を披露しました。就職したい、もっと通所できるようにしていきたい、健康に気をつけるという決意を表される方が多かったです。

来年度は自立支援法の事業移行など変換期となりそうですが、メンバーさんと一緒に目標に向かって頑張っていきたいと思っています。また法人では『OA基礎講座』・『ヘルパー2 級取得講座』、新たに加わった『OA在職者訓練』と『OA実践科』各職業訓練も実施したいと考えており、沢山の方との出会いも楽しみにしております。

朱雀工房に少しでも興味を感じられたら、お気軽にご連絡下さい。何時でもお待ちしております！

(青木保子)

■就職されたメンバーの声

就職活動をして約 1 年、就活のために役立つかと、朱雀工房に入りました。自分自身手先が器用でないのでどこまでできるか不安でいっぱいでした。しかし入所直前まで受講

していた OA 基礎科で一緒にの方がやさしくいろんな所で教えてくれたり、助けたりしてくれたので、すごくやりやすかったです。あと、工賃がすごくうれしくて改めて、お金のありがたさがわかったような気がします。

しかし就活の方はうまくいかず 1 年半で約 40 社落ちました。

そして、平成 22 年 4 月、京都障害者職業センターから連絡がきました。もう 50 歳になったのだから就職をあきらめろと言われると思い行きました。そこで今の会社を紹介され面接を受け、合格しました。

実習 2 週間(無給)ジョブコーチの方がきててくれて、まずご自身が仕事を覚え、私に教えてくださいました。初めての仕事が多かったので大変助かりました。

トライアル雇用 3 ヶ月の間も毎週来ていただき、私の悩みを聞いて的確なアドバイスをいただき、続ける事ができて雇用される事が出来ました。

今では体力もよく付き、なんとか家のことと両立してできています。

あとは自分がどこまでがんばれるな？！と思っているところです。

(林茂之)

■レクリエーションの感想

昨年 11 月 5 日にかれん工房と西山高原工作所と合同レクリエーションで「ひらかたパーク」に行きました。行く前は久しぶりの遊園地を心配する声も少しあったようですが、現地では菊人形を見たり、乗り物に乗ったり、動物と遊んだりと皆で楽しんだ一日でした。皆の感想をご紹介いたします。

- ・40代になり、遊園地は29年ぶりで、アトラクションに乗る前は、予期不安が起きましたが、ジェットコースターとか、バイキングに乗ると、めちゃくちゃおもしろかったです。菊人形は、菊の花を交換する職人さんの腕前が素晴らしかったです。 (M)
- ・ジェットコースターがムッチャおもしろかったです。また連れてって。 (N)
- ・観覧車からの景色が良く、また行きたいです。 (F)
- ・たまには仕事以外の息抜きが必要。春と秋の2回してほしい。 (M)
- ・ひらかたパークでみんなと遊び、すがすがしい楽しい一日となりました。また機会があれば参加したいです。 (N)



■もちつき大会をしました！！

毎年恒例のもちつき大会が昨年12月28日に行われました。今回はかれん工房やグループホームと合同で行いました。地域の役員の方お二人に来ていただき、餅のつき方や丸め方などのご指導を頂きながら行いました。出来たお餅で各施設の鏡餅を作ったり、豚汁や大根おろしと一緒に皆で美味しく頂きました。参加者の声をご紹介いたします。

もちを大根おろしにあわせて、大変おいしく8個もたべてしまいました。つきたてのおもちは、出来立てほやほやで、みんなで協力して作った餅の味は、感無量でした。

(H)

地域の役員の方2人の的確な指導があり、しっかりとした餅が出来、大変よかったです。餅をつくときに初めは、力の入れ方がわからず餅つきをしていました。指導が入り何とか様になりました。餅も喜んでくれたと思います。おいしい餅が食べれて良かったです。

(F)



なごやかサロンから

京都市中部精神障害者地域生活支援センター「なごやかサロン」

●なごやかサロンの相談業務

なごやかサロンの相談支援の関わりとしては、概ね、以下の内容から成り立っています。

- ①平日夕方4時～夜8時、及び土日祝日にサロンとして来所され、利用されている方（土日祝日のプログラムを決めるミーティングに参加した人、当日のプログラムに参加する人、参加しての感想を話し合うミーティングに参加する人がそれぞれ異なり、サロンの利用について、まとまりを持って意見を聞くということが難しい状況があります。）
- ②その上で、必要に応じて、個別に支援を行っている方
- ③相談支援事業の中で、サービス利用計画の支給決定の上で契約を行い、サービスの調整や訪問を行っている方、また、サービス利用計画の対象ではなくなったけれども、個別の訪問や相談などの形で、支援を継続している方
- ④保健センターや医療機関からの依頼を受けて、訪問等にて個別の支援を行っている方
- ⑤退院支援事業での関わり
自立支援員の関わりを基本としながらも、なごやかサロンのスタッフが支援を行う場合や、退院支援事業の対象者の方が退院されたあと、事業終了後に自立支援員から引き継ぐ形で訪問等にて支援を行っている方
- ⑥グループホーム・ケアホーム入居者への支援
夜間巡回や緊急時の対応等にて、生活支援員とともにに入居者への支援を行ったり、退所されたあとも支援等を行っている方
- ⑦法人施設・事業を利用されている方や「卒業」された方への支援 等々
自立支援法の下での事業移行前には、精神保健福祉法に基づく社会復帰施設としての精神障害者地域生活支援センターとして、基本的には、施設として、来所での利用が軸となっていましたが、事業移行前後からは、年を追うごと

に、個別の支援、訪問等が求められ、それに相応した人員配置を必要とする状況となっています。また、（他の支援センターと同様）自立支援協議会や地域ネットワークに関わる業務、関係機関、専門職同士のつながりにおいて求められる役割があります。

研修会等に関わっての準備や講義が重なると、何かに追いかまれている感が強くなり、会議に出席するにしても、責任と共に、多くは準備や事後の調整も含めて担わないといけない内容を伴います。

国レベルでも、急速に進む高齢化社会の中で、社会保障制度の維持、充実、財源の目途もふくめた制度設計が課題となる中、果たしてこの先どこまでやっていけるのか、地域の一機関としてなかなか先が見えにくい中で、無理があっても求められる役割を果たしていく必要があります。現状のままでは、オーバーフローとなるのは必至で、地域において何が求められているか、あるいは相談支援機関として自らの力についてのアセスメントの上で、どこに軸足を定めていくのか、優先順位の判断も含めよく話し合っていく必要があります。弱音をはきそうになる自分を感じつつも、それではすまされない責任を改めて感じます。 （藤井弘）

●京都府精神障害者退院支援事業

本事業の委託を受けて今年度で6年が経過しようとしています。国の流れとしては、これまで『精神障害者地域移行支援特別対策事業』として長期入院の方への退院支援を行ってきましたが、今年度より「地域を拠点とする共生社会の実現」を目的に、『精神障害者地域移行・地域定着支援事業』として、新たにピアサポート（※）の同行活動経費の予算計上と地域定着支援を新規事項として盛り込む形で事業展開

を行っています。

本人が住み慣れた地域を拠点とし、本人の意向に即して、本人が充実した地域生活を送ることができるよう病院と地域が一体となった支援の必要性が高まってきています。退院はあくまでも地域生活につなげるためのプロセスであって、「地域へ移行後の生活をいかにその人らしい豊かな生活にしていくのか」ということが事業の最大のテーマだと思います。“様々なサポートを受けながらも本人自身が自分の生活を作り上げていけるよう寄り添う”という視点を持って今後も取り組んでいきたいと考えています。また、ピアソポーターについては、京都においてはまだ具体的な活動にまでは至っていないという状況ですので、みなさんのご協力も得ながら課題解決に向けて取り組んでいきたいと考えています。今後とも、ご指導・ご理解のほど、よろしくお願ひ致します。

※ピアソポーター：同じ障害を持った仲間。自分の体験をもとに、本人のペースに合わせ相談に乗りながら入院中・退院後の支援を行います。

自立支援員（地域移行推進員）
渡辺恵司・山縣知佳

●研修報告 『精神疾患はどこまでわかったのか』

2010年10月に大阪の支援センターが開催したイベントのなかで、『精神疾患はどこまでわかったのか』という講演会に参加させていただきました。講演の軸となった内容は、精神疾患が進行性の脳体積減少によって生じる疾患（症状）であるということでした。そのためうつ病や統合失調症という分類も、体積減少の脳の部位が異なるだけで根本的には同じ病であるという説明であり（聴覚・音声言語中枢である左上側頭回の体積減少による幻聴等の症状）、私にとっては新しい視点でした。「30年前と同じドーパミン仮説が今でも様々な場で語られているが、実際にはもっと多くのことがわかつてきている」という先生のお言葉通り、ドーパミン以外の経路か

らも脳体積減少につながることや、服薬が効果のない理由や薬が合わないことの理由（前薬をやめたことによる離脱症状の影響も大きい）、薬の種類によっては進行を遅らせるだけでなく、脳体積そのものを上昇させる効果が高いものもあるということ。脳体積の減少は脳の成熟に必要なことで、けっして特別なことではないこと。また、数年後にアメリカで発売されるとされている新薬（PDE4 inhibitor）は、副作用がほとんどない予想で、精神科の薬ではなく一般的な記憶増強剤として出回るのではないかという、期待の高まるお話をありました。このような医学的な視点で精神疾患を説明することは、精神疾患が決して不可解なものではないという人々の理解につながっていくこととして有効性の高いことと感じました。

まだまだこの場では書ききれないことがたくさんあり、他にも刺激を受けた研修や勉強会はたくさんあります。今後も皆さんにお伝えできるよう努めていきたいと思います。

（山本洋）

● “話す” “聞く” 練習をしませんか？

あたりまえのことですが、人生に悩みや困りごと、ストレスはつきものです。人はそのような時に、家族、友人など、様々な人によって支えられています。“人に相談したい時” “人に話を聞いてもらいたい時” “うまく相手と話すことができているでしょうか。自分が言いたいことを整理したり、言葉にして人に伝えることは、けっこう難しいことではないかと思います。また、聞き手側も同様に、相手の状況や真意を理解するのは簡単なことではありません。

なごやかサロンでは、参加者間でいろんな話ができる場として、「月曜トークの会」というプログラムがあります。話をしたり聞く練習の場としても活用できればと思っています。よろしければ、ぜひ一度ご参加ください。

※月曜トークの会

毎週月曜日（祝日を除く）18:20～19:20

（萩原和子）

ワークステーション かれん工房

●かれん工房の近況

2011年かれん工房の仕事初めは一人一人目標を書き初めすることから始まりました。振り返れば2010年日々の業務に追われ、これと言って目標を達成することが出来ませんでした。だから、今年は書き初めを目に入る場所に飾り普段から意識を持つようにしています。かれん工房全体の目標は、皆打ち立てた目標を達成するために「有言実行」に決まりました。各々個性溢れる書き初めに仕上がりっていますので、近くまで来た際にはお気軽にお立ち寄り下さい。

立ち上げから関わらせて頂いた喫茶ぴあ・ひとまちですが、今年の1月をもって撤退させてもらうことになりました。こちらの都合で大変ご迷惑をおかけしますが、今後のかれん工房の方向性を考えた上での苦渋の決断でした。今まで関わり応援して下さった方々には大変感謝しております。本当にありがとうございました。

(かれん工房職員一同)

●実習の振り返り

[2つの実習先を経て…]

僕は去年かれん工房から2回一般就労のための実習に行きました。

一つは普通の喫茶店でした。そこは店の中

で熱帯魚を飼って展示してあって雰囲気のいい、誰でもふらっと立ち寄れるお店でした。僕の仕事は主に皿洗いでしたが店長の作られている料理やコーヒーを入れられている姿など普段かれん工房では見られないことが見られました。期間は4日間でしたが働いておられるみなさん、社長と、とてもいい人に巡り会えました。そこでは一般就労には結びつきませんでしたが貴重な体験をさせてもらいました。

もう一つの実習先は物流の会社の倉庫でした。トラックから運び出される牛乳やパンなどを入れるパレットを台車に積み上げて片付け、業者ごとにパレットを仕分ける作業をしました。まるでテトリスをやっているようでした。作業自体は難しいことはありません、しかし体を動かすので汗をかきます。プラスチック製のパレットを手で持ち上げたりするので軍手がいります。雨の日はパレットが濡れていたので軍手が水で濡れて汚れてしまいます。期間は4日間でしたが貴重な体験でした。

(A氏)

[仲間の大切さ]

一般就労を意識して作業所で訓練してきたつもりでしたが、実習日が近づくにつれて不安がおそってきました。まず作業所に5年近くもいるとその世界にどっぷりつかり作業所を出るということが想像できなくなっていました。日に日に増す緊張と不安の中、「なんと

かなる」と自分に言い聞かせ実習に望みました。

実習が始まると病気の理解度が少ないことを感じました。作業所ではメンバーや精神病に理解のある職員に囲まれ病気のことを自然に話します。しかし、職場では表に出にくいこの病気は社員さんにはわかりづらく、声掛けがなく不安でした。でも、その職場には障害を持った方がおられ自分の心の中に何か安心できるものがありました。昼休みに思い切ってその方々に話してみたら真摯に聞いてくださいました。

後日ジョブコーチにその事を話し、社員さんに伝えてもらうと驚いた顔をされていました。以降あまりにも不安が大きくなると、その方々に話すことにしました。するとだんだん不安から安心の方が大きくなっていました。結果1日も休まず実習に行くことが出来ました。特殊な悩みを共有できる仲間がいることはとても心強いなと心底思いました。これからも作業所の仲間、職場の仲間を大切にしていきたいと思います。

(B氏)

●所外レクの感想

ぽかぽか陽気に花満開

11月5日、京阪電車に乗って朱雀・西山・かれんの3施設が各々、枚方パークに行きました。その日は快晴で、ポカポカ暖かい日射でした。京阪電鉄百周年の菊人形は、人が大勢で「龍馬伝」の菊人形に行けて良かったと思いました。

ローズガーデンは秋バラの他にも花があり、小さい子ども連れの人や、高齢者の人も楽しそうでした。私も、ベンチで花を見ながらお弁当を食べました。その後、スタッフやメンバーと乗り物に乗ることになりました。

長く乗り物には乗ってなかつたので、大丈夫かな?!と思っていたけれど、ジェットコースターなどに思い切って乗ると、空が近く感じられて、もっといっぱい乗り物に乗りたい気分でした。お土産は、“くらわんか餅”という枚方名物の焼き餅を買いました。花もいっぱい咲いていて、楽しかった。

また、レクレーションに参加できたらいいなあと思いながらの1日でした。

(C氏)

ぐるぐるメリーゴーランド

まず今年は、京阪電鉄百周年なので「龍馬伝」の菊人形展を見に行けて本当に良かったです。もう菊人形は職人が後継者不足で見られなくなると聞いて残念と思っていた矢先のことでしたので、確かにまだ飾り付けが出来ていない人形もあったのですが、頑張って飾り付けをしておられました。

私はEさんとメリーゴーランドに乗りました。他の人からは、馬か馬車に乗るよう進められたが、それでは楽しくないと思い、コーヒカップみたいにぐるぐる回る乗り物に乗りました。ちょっと目が回り、後でくらうしたのを覚えています。

その後、ひらパーに来たのだから、観覧車に乗りたいと思い乗りました。ひらパー全体を眺められ、淀川までも見られて良かったです。

他の人はマクドでお昼ご飯を買っていましたが、私はお弁当を持参していたので、みんなと一緒にご飯を食べました。みんなとひらパーに行けて楽しかったです。

(D氏)

西山高原工作所

新しい年を迎えて

一年の計は元旦にありといいます。西山高原工作所は恒例の《初会》でスタートをきりました。そこで新年の抱負をそれぞれが述べたのですが、抱負というと何か大変なことを言わないといけないような気がするもので、とっても難しいのですが、そこはみなさん自然体で自身を冷静に見つめて発言されました。

年末には仕事納めの《納会》があり、そこでは体調の変化などしんどかった時期を振り返る言葉が多く聞かれました。どの方も大変努力して一年を乗りきってこられたわけです。そして、次の一年に向けての気持ちの多くは〈元気になりたい〉というものでした。新年の抱負として着実に一歩前に進んでいきたいという思いをたくさん聞けました。

〈元気で仕事をしたい〉〈出来るだけ休まずに来たい〉といった感じでしたが、これは〈仕事が楽しい自分〉のイメージで、〈生活リズムを整え毎日通所したい〉という気持ちに通じます。〈今年は夏を仕事しながら乗り越えたい〉という抱負も体調に気をつけて乗り越えていくのだという思いがよく伝わってきます。「前向きに生きよう」と考えておられるのです。周りから見て華々しいことはなにも起こっていない様に見えて、何事もなく過ごせているということは、前向きな努力の成果であり、もっともっと自信をもって良いはずです。

〈例年通り作業や配達を積極的にするだけ

である〉と語られた人がいました。「だけ」という言葉を使って謙虚な表現になっていますが、ねばり強く自分にできることを続けているのは素晴らしいことだと思いませんか。

毎年新年の抱負では、元氣でいたい、元気になりたいという言葉を多く聞きますが、「元気」になるためには、自分で自分を認め大切にすることが始まりになると思います。取り巻く状況や身のまわりに起こることは嫌なことや辛いこともあるわけですが、良い面だってあります。物事のプラス面を積極的に探し、等身大の自分を見つめ肯定する力が一歩ずつ前へと押し出してくれます。

〈少しでも就職に近づけるよう作業時間を延ばす〉のはベースとなる力をきちんとつけようという気持ちからです。ただ、どんなに頑張ろうと思っても、そこは人間なわけですから〈体調と仕事が均等に両立すること〉が大事とすばり見抜いておられます。また〈今年は元気で頑張りたい〉といっても自分のことだけ頑張るというのではなく、〈自分の班の仕事だけでなく、他班の仕事も丁寧にしっかりとやれたら良い〉との言葉も聞くことができました。

〈商品の在庫に注意しつつ、その仕事をしっかりとしたうえで、尚且つ就職活動を頑張る〉という責任感溢れる抱負や、就職するのは目標だけれども〈親が安心して余生を暮らせるように！！〉と家族への想いも忘れません。他には〈料理がよくできるようになりたい〉方、〈パソコン操作の技術を身につけたい〉方など、み

なさん本当に生活の質を高めたいと願っているのが分かります。

スタッフも前を見据えて物事のプラス面を探し、メンバーと一緒に進んでいきたいと改めて感じる新年となりました。地道に努力する人の通う西山高原工作所です。本年も変わらずご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

行事・出展など

さて年のはじめということで、報告が前後しますが、秋以降の取り組みをご紹介致します。

10月1日：西山高原工作所はグループホーム山ノ内とともに10周年を記念する式典を催しました。72名の参加で利用者の方一人ひとりの発言もあり盛会のうちに終了しました。

10月3日：恒例の「ふれあいの里秋まつり」に出展させて頂きました。途中から雨が降り出し、少し早めに片づけることになりましたが売上げも好調で隣のブースの方とも仲良くなりました。

10月17日：京都ミレニアムライオンズクラブさんの「桂川あき缶ひろい」ボランティアに参加させて頂きました。みんなで協力しあって河原まで荷物を運んだり、ゴミを拾いました。その後でおいしいごちそうを頂き、秋晴れの中楽しいひとときとなりました。

10月21日：「西京区こころの健康講座」に参加。メンバー4人が参加し、一人が発表、もう一人がサポート役、他の2人は出展販売をしました。

12月4日：みやこめっせ「ふくふくフェスタ」に出展。5人のメンバーが販売に携わりました。みんなでシフトを決め、それ以外の時間はいろんなブースを見てまわり、晩秋の有意義な一日となりました。

12月27日：一年の締めくくり《納会》をしました。メンバーは15人で、詩を作ったり、ゲームをしたり楽しく過ごしました。

1月4日：《初会》では皆でお寿司を食べ新年の抱負を述べました。

作業紹介

印刷班：冊子や名刺、ポスターなど各種印刷・製本の注文を頂いて丁寧に検品し納品しました。

縫製班：T・V字帯、腹帯の縫製、しつけ、裁断、ミシンなどミーティングで一日の作業の流れと分担を決め、熱心に取り組みました。近くの児童館の子どもたちの誕生日プレゼント（巾着）を毎月注文して頂いています。

検査班：スイングプレートという合成樹脂製品の検査をしています。数の確認についても、協力しあって行います。

袋班：さまざまな紙袋の折り、切り、糊貼りの工程を分担し、仕上げています。誰が何を担当するかなどミーティングを大切にしています。

独自製品：田島征彦さんに描いて頂いた原画によるTシャツ作りや友禅紙の小物など美術展や出展の開催に合わせてその都度チームを作り生産しました。

どの班もどの作業も話し合いを大切にして行いました。より良い製品を作っていくよう今年も頑張りたいと思います。日頃のご支援を感謝しております。ありがとうございます。



グループホームトピックス

新年最初の「光彩だより」ということで、今回は入居者の皆さんから今年の抱負について聴かせてもらいました。

★グループホーム賀陽

メンバー各々が日中活動を大事にしつつ、夕食はみんな揃って楽しい時間にしていきたいと思います。
また得意分野、趣味を活かした休日の過ごし方をしていきます。
そして自分たちの生活に関わることは話し合って進めていく。
この3点を大事にしつつ楽しい空間であるよう心掛けていきたいです。 (入居者)

今年の目標は、「ゆっくり・のんびり暮らす」ことです。それでいて、決められたことや約束をきっちり守りたい…と思う私は欲張りでしょうか？ (入居者)

★グループホーム光

今年は一人暮らしを目標にしたいです。理由は「優雅にのんびりと自由に生きたいから」ですが、特にグループホームでの暮らしに束縛を感じるというわけではありません。日中はデイケアに通い、職員と冗談を言い合うこともあります。一人暮らしを始めたら、可愛い女性ヘルパーが来てくれたら嬉しいですね(笑) (入居者)

★グループホーム山ノ内

今年はグループホームの統括リーダーとして、恥ずかしくない人間になりたいと思います。トイレ掃除、風呂場の掃除、床掃除、ミーティングの司会等です。みんなが和気藹々とした場になるよう心配りをしたいと思います。

また他のグループホームとの交流も考えていこうと思います。
私個人のことですが、今年はハローワークに通ってみようと思っています。自立した自分を想像できるようになればいいなあ、と思っています。 (K. Y)

今年1年、スタッフも皆さんとともに目標に向かって努力していきたいと思います。

皆様にとりましても良い年になります様、お祈り申し上げます。

(グループホーム賀陽・山ノ内・光
スタッフ一同)



ヘルパーステーション光彩

◆ヘルパーステーション光彩スタッフより

ヘルパーステーション光彩で常勤になり早一年が経ちました。ぞくぞくと新しい利用者さんやヘルパーさんが増え、有難い毎日です。加藤先生はじめ、上村副理事長の理念の元、精神に障害のある方々への在宅支援と、支援に入るヘルパーさんへの啓発活動、精神に障害があるというだけでネガティブな偏見が低減するよう研修会を行っています。研修会は好評の為、平成23年度は年2回開催予定をしています。またピアヘルパーさんが多く登録でおられるのですが、同じ生活のしづらさを抱えるピアだからこそできる在宅支援の良さ、障害を抱えながらも一般ヘルパーさんに負けない働きぶりに感動を受ける毎日です。在宅ヘルパーは直行直帰が多く孤立しやすい環境が生まれる為、ヘルパーステーション光彩では昨年5月より、月1回のペースでヘルパー勉強会を行っています。共に学び、苦悩を話合う中で連帯感が生まれ、一人ではないという心強さとモチベーションが上がります。沢山の個性あるヘルパーがいるからこそできる多様な利用者さんへの絶妙な対応にも目が離せません。私は、ヘルパーの皆さんのがより輝いて発揮されているこの場に携らせて頂いていることに深く感謝致しております。今後ともよろしくお願ひ致します。 (山下理恵子)

ホームヘルパー。人の命を預かる大変な仕事で、神経症という障害を持つ自分に勤まるかと心配でしたが、勤務を一つ一つ終え、その日その日を何とか終えました。最初はビクビクハラハラしていましたが、だんだん度胸が座ってきました。今でも心身が疲れた時はスタッフの人に甘えて休ませてもらう時もあるのですが、障害に理解があり、気兼ねなく休ませてもらいました。今もなお利用者さん宅で慌てることもあるのですが「落ち着いて落ち着いて」と自分に言い聞かせて仕事をやり抜きたいと思います。今年の抱負として、もう仕事を変わるつもりはないので、自分の心身に無理の

ない程度に仕事を続けること。今年の目標に、介護福祉士の資格を取って、生涯勤めたいと思っています。

(星野秀範)

ヘルパーになって半年。最初は自分にできるかドキドキものでしたが、良い利用者さんに恵まれ、また素晴らしいスタッフさんの後押しで、いつも楽しく仕事をしています。これからももっと技術と知識を増やして、ステップアップしていきたいと思います。

(船越克真)

ヘルパーの講習・研修に沢山参加し、ゆくゆくは介護福祉士を目指してスキルアップを図り、自分の成長できる事も含めて頑張っていきたいと思っています。ピアヘルパーとして、私の疾患の経験などがお役にたてればと思います。よろしくお願ひ致します。

(山内亮太)

新年あけましておめでとうございます。光彩に入り、障害のある方、精神の方、色々な方とお会いすることがあり、まだまだ戸惑いながら過ごしています。そんな中、思うのですが、私より利用者様の方がはるかに頑張っているのが伝わってきて、とてもパワーを貰います。また、とても繊細な方多く、逆に支えられ励まされることもしばしば。寄り添う支援を心がけ、少しでも利用者様の願いが叶えられたらと日々頑張っています。今年はウサギ年！ウサギのように大きな耳でアンテナを張って頑張って行きます。

(長田実穂子)

昨年11月より仲間入りさせて頂きました、ちびまるちゃんのお母さん似の笠井です。随分とブランクがあるので一つ一つ勉強しながら、利用者さん的心に寄り添いながら、のんびり、ゆったり、お仕事を続けていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

(笠井由貴江)

法人からの報告

●地域福祉推進モデル事業助成を活用して地域交流会を開催しました

平成22年11月16日（火）午後1時から朱雀工房において朱七学区の社会福祉協議会・女性会の役員さんたちと交流会を開催しました。老人配食サービスのお弁当の試食、うつ病についての話、利用メンバー3名の体験談、中京区こころのふれあいネットワークの案内、朱雀工房の見学を行いました。25名の参加があり、メンバーへの質問、笑顔でのやりとりがみられ、よい交流ができました。この催しは中京区地域福祉推進モデル事業から助成をいただいて実施しました。

地域の方たちに精神保健福祉や施設について知っていただくためにこのような取り組みを続けていきたいです。

（上村啓子）

●平成22年度 清掃作業講習会が修了しました

無事に全員が修了することができました。アビリンピックの清掃競技を視野に入れた講義内容に全員が集中して取り組み、講師の先生方のご指導の元で清掃技術の向上に励みました。

受講生の方から、「就職が決まり今はアビリンピックを目指し勉強中です」との報告を頂いています。皆様のご支援に感謝致しますと共に、来年度もご協力頂きますようよろしくお願い申し上げます。

（齊藤夕子）

●職業訓練の報告

精神に障害のある人たちを対象とした職業訓練は平成17年から開始した「介護サービス科」をはじめとして、「OA基礎科」「OA実践科」と充実してきました。平成21年度からは訓練・生活給付金の支給対象となり、受講しやすくなっています。修了生の3割は雇用され、職域が広がっています。

■平成22年度「介護サービス科」が修了しました

9月の上旬から開始した求職者向け短期職業訓練「介護サービス科」は12月24日に受講生6名が無事に修了証を授与されました。4ヶ月という長期間の座学・実習でしたが皆さんよく頑張られたと思います。この実習を通して就労に向けて自信をつけられたことでしょう。この経験とヘルパー2級の資格を生かし、就労をめざして頑張っておられます。皆さんが出稼出来るよう祈っています。

介護サービス科は今秋にも実施する予定です。興味のある方はご参加下さい。

（梅沢信吾）

●在職者訓練

国からの助成を得て、仕事をされている精神に障害のある人たちに向けて在職者訓練「パソコン実践科」を8回の日程で10月から12月まで開催しました。10名が参加され、仕事に役立つパソコン技能を学びました。技能を高めるだけでなく、仲間作りの場や余暇の有効な過ごし方にもなりました。

●委託職業訓練「OA実践科」開催

平成23年1月7日から3月いっぱいまでパソコンの実践能力を磨き、就職を目指す職業訓練である「OA実践科」を実施しています。受講生15名が月・水・金・土の9:00~16:30まで、パソコンや対人技術を学びます。パソコンの講習では、ワードやエクセルの使い方だけでなく、実際の仕事の場面を念頭に置いた書類の作成やネットワークの構築などを個人やグループで勉強する予定です。3月にはM C A Sというパソコンの技能検定を受験します。

またビジネスマナー講習やS S Tなどを通じて、職場で具体的に役に立つ対人技能を勉強し、実践力をさらに磨く予定です。一年で一番寒い時期の講習会になりますが、健康管理に気をつけて皆が修了出来るようサポートを続けていく予定です。皆様よろしくお願ひ致します。

●ジョブコーチ制度を活用しませんか？

ジョブコーチは、事業所へ出向き、障害のある方に作業指導や人間関係に関する支援や助言などを行い、安定して働くことが出来るようサポートします。また事業主には、障害特性の理解促進や支援のノウハウを提供し、働きやすい環境作りのお手伝いをします。

当法人には、現在2名のジョブコーチが在籍しています。法人内の事業所から就職された方々の多くは、ジョブコーチ制度を利用し現在も安定して働いています。平成22年度現在では、朱雀工房から2名の方が制度を活用しながら就職されています。

利用者からは、『日頃から関わりがあり信頼しているスタッフが、会社に来てアドバイスをしてくれたり、何でも相談できるので安心です』との声があります。他事業所の利用者の支援も可能です。京都障害者職業センターにお問い合わせください。 (向井規子)

●いろいろな集まりをしています！

なごやかサロンでは、「ピアサポートの集まり」や「介護サービス科」や「パソコン」に関する訓練のO B会を開催しています。地域でいろいろな活動にがんばっていらっしゃる仲間の交流の場を設け、互いに元気になっていただくことをめざしています。仲間の力はとても励みになるものです。ピアサポートの集まりは年3回程度、O B会は年1回ずつ開催します。皆様ご参加ください。

●野地芳雄理事

京都新聞社会福祉大賞受賞

法人開設や朱雀工房設置に中心になって動いて頂き、以後も法人の役員をつとめてくださっている野地芳雄さんが、京都新聞社会福祉大賞を受賞されました。精神保健福祉の向上や家族会活動にご尽力された功績が認められたものです。関係者で12月4日に受賞記念祝賀会を行いました。お琴の演奏、歌、お祝いの言葉が贈られ、こころ温まる会となりました。今後もお元気でご活躍されることをお祈り申し上げます。



●京都ミレニアムライオンズクラブ 10周年記念にアワードを贈呈しました

クラブ創設以来ずっとご支援いただいている京都ミレニアムライオンズクラブ様が10周年を迎えられ、12月7日に記念式典が開かれました。大々的な華やかな会でライオンズクラブの方々の友好とさずなの深さに感激しました。

京都ミレニアムライオンズクラブ様とはヒューマンマインドコンサートを開催したり、環境整備活動を一緒に行ったりしています。継続して多大なご協力、ご支援をいただいている精神に障害のある人たちをご支援いただいているライオンズクラブ様は全国的にも少なく、大変ありがとうございます。

感謝の気持ちを表して、アワードの旗をお贈りすることにいたしました。みんなで考え、ヒューマンマインドコンサートの際に使用したマークを図案化しましたが、思った以上に素敵なものに仕上がったのではないかと自画自賛しています。

これからも京都ミレニアムライオンズクラブ様とともに活動していけたらと思っています。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



●ありがとうございました

■朱常本店様

年末に朱常本店様よりバナナのご寄贈をいただきました。おいしいバナナで利用者、職員とも楽しみにしています。夏と冬、年2回いただくバナナは恒例となっていますが、長年贈り続けられるのは並大抵のことではないと思います。本当にありがとうございます。

■京都新聞社会福祉事業団様

京都新聞社会福祉事業団様から朱雀工房で行っている高齢者配食サービス事業に対してお米とウエットティッシュのご寄付をいただきました。歳末ふれあい募金に寄せられたご寄付から贈られたものです。ご高齢者に食事が1食でも安価で提供されるようにとご寄付くださったものです。そのお気持ちにこたえてよりおいしい食事をお届けしたいです。

●京のかれん家族会から

法人運営施設の朱雀工房、ワークステーションかれん工房、西山高原工作所に通所している、また通所したことのあるご利用者ご家族で構成される家族会です。「ささえあい」「まなびあい」「はたらきかけ」という三つの柱で活動しています。年末にはお互いの困ったことに助言をし合う勉強会と忘年会を行いました。2月にはご利用者の日頃の活動の報告があります。

趣旨にご賛同いただき、よろしくご参加ください。

《編集後記》

光彩だよりの編集期限の目標を何度も立て直しながら、ようやく完成してホッとしています。

今年の冬は寒かったので早く暖かくなつてほしいなと思い、春が待ち遠しいです。 (吉水莉恵)

